

## 日中高齢者における日常生活の意識調査 Survey of life of elderly Japanese and Chinese

劉 非<sup>1</sup> Liu Fei, 張 勇<sup>2</sup> Zhang Yong

### I はじめに

2011年以降の30年間、中国社会の高齢化は急ピッチで進んでおり、2030年になると、65歳以上の人口の比率が今の日本を上回り、世界で一番の高齢社会になると予測されている。また、2050年になると、60歳以上の人口が3割を占め、高度な高齢社会に入ることになる<sup>1)</sup>。ところが、日本を含むほとんどの先進国は経済が豊かになってから、高齢社会に入ったのだが、中国は経済発展途中に高齢社会を迎える。これと同時に、農村部の高齢化は都市部より進んでおり、一人暮らしの高齢者が増え続けている。こうしたことは今後の中国社会の持続的な成長に影響を及ぼすことになる。よって、今後いかに高齢者に対して、よりよい養老保険制度を作りあげ、さらに社会貢献の面で彼らが役割をいっそう果たせるようにするかが大きな課題になると思う。そのため、高齢化が一番進んでいる隣国である日本の経験は、中国にとって「他山の石」ではないかと思う。

### II 調査の目的

2015年には中国の65歳以上の人口が2億になると予測されている。すなわち、全世界でおおよそ4分の1の高齢者が中国で生活することになる。近年、中国政府は調和の取れた社会の構築という構想を打ち出した。これは中国が経済成長を最優先にすることから、公平かつ公正な社会への構築に力を入れることを物語っている。そのうち、高齢者が充実した生活ができる社会構築はその一環である<sup>2)</sup>。

本調査は、日中両国の高齢者の日常生活の健康、住宅、消費、食品などに関する満足度を把握するとともに、その比較を行い、高齢化と少子化がともに急ピッチで進んでいる中国の社会対策の推進に資することを目的として実施した。

### III 調査対象者、調査事項および調査方法など

#### ①調査対象：

日中両国60歳以上の男女、計160人（内訳：日

本男性40人；女性40人；中国男性40人；女性40人）

#### ②調査方法

アンケート調査を行い、回答率は100%。

#### ③調査事項

- ア、将来の日常生活への不安に関する事項
- イ、健康に関する事項
- ウ、日常生活に関する事項
- エ、住宅に関する事項
- オ、消費に関する事項
- カ、子供や孫との付き合い方
- キ、外出に関する事項
- ク、生活情報源に関する事項
- ケ、高齢者社会対策に関する事項

#### ④調査実施期間

日本側調査：平成22年6月26日～7月24日

中国側調査：平成22年8月11日～8月22日

### IV 調査結果

#### ①将来の日常生活への不安

将来の生活への不安を見ると、中国の男性は「多少不安」が15%、「とても不安」が7.5%、両方を合わせた「不安を感じる」の合計割合は22.5%、女性は27.5%となっている。一方、「多少不安」、「とても不安」の両方を合わせた「不安を感じる」と答えた日本の男性の割合は30%、女性は77.5%となっている。これはここ数年、日本経済が低迷状態にあり、今後の介護や老後のための保険について心配する高齢者が増えていることと思われる。

不安を感じる理由を見ると（表1）、日中両国共に「自分や配偶者の健康や病気のこと」が50%以上と最も高く、ついで、「自分や配偶者が寝たきりや身体が不自由になって介護が必要な状態になること」、「子供や孫の将来」、「生活のための収入のこと」などの順となっている。そのうち、「子供や孫の将来」と答えた中国の男性が30%、女性が37.5%、日本の男性が22.5%、女性が27.5%となっている。日本側と比較すると、中国側は子供や孫の将来を心配している比率が高かった。

所属

1 長野県短期大学 客員研究員

2 長野県短期大学 教授

表1 不安を感じる理由

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
自分や配偶者の健康や病気のこと	28 (70.0)	20 (50.0)	28 (70.0)	26 (65.0)
寝たきりなど介護が必要になること	18 (45.0)	15 (37.5)	15 (37.5)	13 (32.5)
生活のための収入のこと	11 (27.5)	9 (22.5)	12 (30.0)	14 (35.0)
家業、家屋、土地や墓の管理や相続	5 (12.5)	3 (7.5)	7 (17.5)	3 (7.5)
家族との人間関係	2 (5.0)	4 (10.0)	4 (10.0)	8 (20.0)
人との付き合いのこと	3 (7.5)	1 (2.5)	5 (12.5)	1 (2.5)
子供や孫などの将来	9 (22.5)	12 (30.0)	11 (27.5)	15 (37.5)
親や兄弟などの世話	0 (0.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	2 (5.0)
社会の仕組みが大きく変わってしまうこと	1 (2.5)	6 (15.0)	3 (7.5)	9 (17.5)

表2 健康の維持増進のための心がけ

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
休養や睡眠を十分とる	16 (40.0)	24 (60.0)	27 (67.5)	30 (75.0)
規則正しい生活を送る	17 (42.5)	29 (72.5)	26 (65.0)	18 (45.0)
栄養のバランスの取れた食事を取る	14 (35.0)	19 (47.5)	24 (60.0)	22 (55.0)
保健薬や強壮剤を飲む	1 (2.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	11 (27.5)
健康診査などを定期的に受ける	19 (47.5)	16 (40.0)	22 (55.0)	16 (40.0)
お酒を控える	3 (7.5)	14 (35.0)	3 (7.5)	2 (5.0)
散歩やスポーツをする	10 (25.0)	25 (62.5)	22 (55.0)	25 (62.5)
地域活動に参加する	2 (5.0)	4 (10.0)	11 (27.5)	7 (17.5)
気持ちをなるべく明るく持つ	4 (10.0)	18 (45.0)	20 (50.0)	20 (50.0)

## ②自分の健康状態への不安

自分の健康状態に不安を感じるかについては、日中の高齢者共に、自分の健康状態を心配している人が多く、およそ半分以上の割合を占めた。また、健康の維持増進について、「休養や睡眠」、「規則正し

い生活」、「散歩、スポーツする」、「定期的な健康診査」がとても重要だと考えられた。

健康づくりへの対策を見ると(表2)、「休養や睡眠を十分とる」と答えた中国の女性は75%、日本の女性は67.5%と最も高い。「規則正しい生活を送る」と答えた中国人男性が最も多く、72.5%を占めており、「健康診査などを定期的に受ける」と答えた日本人男性が一番多く47.5%となった。また、日中両国の女性が共に、「気持ちをなるべく明るく持つ」と答えた割合も高く、いずれも50%を占めた。このほか、「散歩やスポーツをする」が高い割合を占めた。健康づくりの面で男性と女性の答えに相違があったが、ライフスタイルや生活習慣などは健康への影響がとても大きいという認識で一致した。特に女性のほうが、積極的な生活態度が健康づくりの面で大きな役割を果たすことを強調している。

## ③日常生活について

日ごろ特に心がけていることをみると(表3)、「健康管理」が日本でも中国でも70%を上回り、最も高い割合を占めた。ついで、「食事」、「教養、学習、趣味、スポーツ活動」、「家族、親戚との付き合い」などの順となった。国別に見ると、「健康管理」と答えた日本の男性が87.5%、女性が95%、中国の男性が72.5%、女性が72.5%となっており、もっとも高い割合を占めた。また、「教養、学習、

表3 日頃特に心がけていること

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
健康管理	35 (87.5)	29 (72.5)	38 (95.0)	29 (72.5)
食事	22 (55.0)	27 (67.5)	31 (77.5)	23 (57.5)
家族、親戚との付き合い	8 (20.0)	13 (32.5)	14 (35.0)	22 (55.0)
近隣、友人、仲間との付き合い	7 (17.5)	8 (20.0)	18 (45.0)	7 (17.5)
外に出ること	9 (22.5)	6 (15.0)	23 (57.5)	5 (12.5)
住まい	5 (12.5)	4 (10.0)	10 (25.0)	6 (15.0)
教養、学習、趣味	19 (47.5)	17 (42.5)	26 (65.0)	6 (15.0)
家事	2 (5.0)	9 (22.5)	13 (32.5)	20 (50.0)
社会奉仕活動	5 (12.5)	6 (15.0)	10 (25.0)	5 (12.5)

表4 日常の楽しみ

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
テレビ、ラジオ	26 (65.0)	29 (72.5)	27 (67.5)	36 (90.0)
新聞、雑誌	24 (60.0)	18 (45.0)	22 (55.0)	18 (45.0)
仲間と集まったり、おしゃべりをする	13 (32.5)	21 (52.5)	29 (72.5)	19 (47.5)
旅行	18 (45.0)	7 (17.5)	25 (62.5)	11 (27.5)
家族との団欒	13 (32.5)	14 (35.0)	9 (22.5)	17 (42.5)
散歩	11 (27.5)	17 (42.5)	19 (47.5)	13 (32.5)
食事、飲食	10 (25.0)	6 (15.0)	14 (35.0)	6 (15.0)
買い物	1 (2.5)	2 (5.0)	13 (32.5)	8 (20.0)
スポーツ活動	11 (27.5)	13 (32.5)	16 (40.0)	6 (15.0)
パソコン、インターネット	9 (22.5)	11 (27.5)	8 (20.0)	11 (27.5)
室内娯楽	9 (22.5)	11 (27.5)	1 (2.5)	8 (20.0)

趣味」と答えた割合を見ると、日本人女性が65%であるのに対し、中国の女性がわずか15%に止まっている。中国より日本の女性が「教養、学習、趣味」に対して関心が高かったことが分かる。

普段の生活でどのようなことを楽しみにしているかを見ると(表4)、「テレビ、ラジオ」がもっとも多く、ついで、「仲間と集まったり、おしゃべりをする」、「新聞、雑誌」、「旅行」などの順となった。

#### ④住宅

住宅について、日中両国の調査対象者は、基本的に現在住んでいる住宅について満足しているが、不満な点をあげると、中国側では「住宅が狭い」と答えた人が最も多かった。日本側では「住まいが古くなり、傷んでいる」と答えた人が多かった。将来住宅のリフォームや新たな住宅取得に際し重視することは、部屋に段差がないことであった。

現在住んでいる住宅に対する不満を見ると(表5)、日中両国の回答がそれぞれ異なる。国別に見ると「住宅が古くなり、傷んでいる」と答えた日本人の男性が20%、女性が22.5%となっており最も高い割合を占めている、ついで、「住宅の構造や作りが高齢者には使いにくい」などの順となっている。

表5 住宅について不満に思うこと

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
住宅が狭い	1 (2.5)	7 (17.5)	2 (5.0)	15 (37.5)
部屋数が少ない	2 (5.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	11 (27.5)
台所、便所などが設備が使いにくい	2 (5.0)	4 (10.0)	4 (10.0)	10 (25.0)
住宅の構造や作りが高齢者には使いにくい	7 (17.5)	6 (15.0)	8 (20.0)	8 (20.0)
住まいが古くなり、いたんでいる	8 (20.0)	2 (5.0)	9 (22.5)	8 (20.0)
家賃、税金など住宅に関する経済的負担が重い	3 (7.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	6 (15.0)
転居を迫られる心配がある	0 (0.0)	2 (5.0)	0 (0.0)	6 (15.0)
日当たりや風通しが悪い	3 (7.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	4 (5.0)

一方、中国では、「部屋が狭い」と答えた中国の男性が17.5%、女性が37.5%となっており、最も高い割合を占めている。ついで、「部屋数が少ない」などの順となっている。これは中国の半数以上の高齢者が20年前に建てられた住宅に住んでいるからである。そのため、最近の住宅に比べると間取りや広さなどが古い生活様式のものであり、現代的な生活様式に適さないであろう。(表5)

住宅のリフォームや新たな住宅の取得に際し重視することについて(表6)、日本も中国も部屋に段差のないことを重視していることが分かる。国別に見ると、「住宅内のとこの段差がない」と答えた日本人の男性が35%、女性が40%となった。ついで、「手すりがある」などの順となった。一方、中国の男性が40%、女性が57.5%「玄関から通路までの段差がない」と答え、高い割合を占めた。ついで、「ブザーなどの防犯措置」などの順となった。この結果から見ると、部屋の中に段差がないことは日本でも中国でも重視されたことである。ただし、「ブザーなどの防犯措置」を重視する中国側の割合が日本より20%以上高かった。(表6)

#### ⑤消費について

消費全般についての満足度を見ると、日本も中国も消費全般について満足していた。不満に思うものは日中両国がいずれも、「医療、医薬品」および

表6 住宅のリフォームなどの場合、重視すること

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
手すりがある	15 (37.5)	4 (10.0)	15 (37.5)	6 (15.0)
住宅内のとこの段差がない	14 (35.0)	5 (12.5)	16 (40.0)	9 (22.5)
玄関から通路までの段差がない	9 (22.5)	16 (40.0)	14 (35.0)	23 (57.5)
ドアではなく引き戸など	6 (15.0)	11 (27.5)	10 (25.0)	16 (40.0)
入りやすい浴槽	8 (20.0)	7 (17.5)	11 (27.5)	13 (32.5)
使いやすい流しや洗面台	7 (17.5)	8 (20.0)	12 (30.0)	14 (35.0)
車椅子でも通れる広い幅の廊下など	7 (17.5)	7 (17.5)	7 (17.5)	10 (25.0)
浴室の暖房装置	7 (17.5)	16 (40.0)	12 (30.0)	12 (30.0)
ブザーなどの防犯装置	3 (7.5)	17 (42.5)	8 (20.0)	18 (45.0)
火災やガス漏れの自動警報装置	15 (37.5)	0 (0.0)	8 (20.0)	1 (2.5)

「食料品」となった。不満に思う理由を見ると、食料品に対しては、主に「食品の添加物が多すぎる」ということだった。医療・医薬品に対しては、主に「診察の時に待たされる」と答えた人が多かった。

現在の消費生活全般についての満足度を見ると、「満足している」、「ある程度満足している」両方をあわせた「満足」と答えた中国の男性が62.5%、女性が47.5%、日本の男性が62.5%、女性が55%となった。全体から見ると日中両国の男女がいずれも現在の消費全般について満足していた。また性別に見ると、女性より男性の方の満足度が高かった。

不満に思う商品、サービスを見ると（表7）、「医療、医薬品」と答えた中国人男性が55%、女性が50%、日本人男性が35%、女性が50%となっており、非常に高い割合を占めている。ついで、「食料品」、「金融、保険」などの順となっている。これは日本も中国も「医療、医薬品」と「食料品」の安全性を非常に重視していることを示している。特に、ここ数年中国では食品に関する安全意識がますます高まっており、安全かつ健康的な食生活を求めている人が増えてきた。

食料品に対して、不満に思う理由を見ると（表8）、中国の男性の67.5%、女性の67.5%が「食品添加物が多すぎる」と答え、最も高い割合を占めた。一方、日本人の男性については「価格が高い」と答

表7 不満に思う商品、サービス

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
衣料品	0 (0.0)	2 (5.0)	8 (20.0)	4 (10.0)
食料品	7 (17.5)	20 (50.0)	17 (42.5)	23 (57.5)
住宅、住宅用品	2 (5.0)	10 (25.0)	1 (2.5)	16 (40.0)
理美容、化粧品	0 (0.0)	2 (5.0)	4 (10.0)	1 (2.5)
医療、医薬品	14 (35.0)	22 (55.0)	20 (50.0)	20 (50.0)
家電など	1 (2.5)	2 (5.0)	3 (7.5)	4 (10.0)
運輸、交通	6 (15.0)	1 (2.5)	6 (15.0)	5 (12.5)
通信、放送受信	5 (12.5)	1 (2.5)	5 (12.5)	1 (2.5)
金融、保険	9 (22.5)	3 (7.5)	15 (37.5)	2 (5.0)

表8 食料品について不満に思う理由

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
国産品が少ない	5 (12.5)	5 (12.5)	14 (35.0)	12 (30.0)
賞味期限、原産国など食品表示などに不信を感じる	4 (10.0)	9 (22.5)	15 (37.5)	9 (22.5)
価格が高い	9 (22.5)	17 (42.5)	4 (10.0)	25 (62.5)
食品添加物が多すぎる	5 (12.5)	27 (67.5)	14 (35.0)	27 (67.5)

えた人が最も多く22.5%を占めた。日本人女性については「賞味期限、原産国、食品添加物など食品表示どおりか不信を感じる」と答えた人が最も多く、37.5%となった。（表8）

医療、医薬品に対して、不満に思う理由を見ると（表9）、「診察の時に待たされる」と答えた人が一番多く、全体の41.87%を占めた。ついで、「費用が高い」、「副作用や薬害の心配がある」などの順となった。今回の調査結果を見ると、医療システムが整備された日本とまだ整備中の中国では、医療サービスや医薬品などに対して程度の差はあるが、不満に思う理由がほぼ同じだということが分かる。日本の場合、国民医療保険に加入すると、全国のどこの病院へ行っても診療を受けることができる。すなわ

表9 医療、医薬品について不満に思う理由

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
費用が高い	13 (32.5)	19 (47.5)	15 (37.5)	18 (45.0)
価格が高い	4 (10.0)	13 (32.5)	7 (17.5)	20 (50.0)
診察のときに待たされる	17 (42.5)	11 (27.5)	18 (45.0)	21 (52.5)
副作用や薬害の心配がある	10 (25.0)	19 (47.5)	13 (32.5)	20 (50.0)

表10 子供や孫との付き合い方について

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
いつも一緒に生活できるのがよい	15 (37.5)	8 (20.0)	10 (25.0)	11 (27.5)
ときどき会って食事や会話をするのがよい	20 (50.0)	23 (57.5)	28 (70.0)	25 (62.5)
たまに会話をする程度でよい	3 (7.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	7 (17.5)
全く付き合わずに生活するのがよい	0 (0.0)	5 (12.5)	0 (0.0)	3 (7.5)

ち、国民医療保険は全国に通用するものである。しかし、中国では医療費をほとんど会社が負担するので、会社が指定した病院だけに通用する。それ以外の病院に通う場合、医療費の請求はできない。その上、すべての会社が医療費を負担するわけではなく、政府機関と一部の事業体が医療費を負担する。そのため、基本的医療保険のカバー率は低かった。ところが、経済成長と共に医療面における個人負担額が1990年以來、年々20%のスピードで上昇しつつある。「医療費が高すぎ、支払うことができない」という問題は大きな社会問題の一つになっている<sup>1)</sup>。中国政府はこれを解決するため、勤め先から医療費を負担するシステムを個人と社会が共に負担する医療保険制度の改革を行っている。その結果、2000年～2006年、都市部で基本医療保険を享受できる男性高齢者の割合が67.3%から82.9%、女性が36.9%から65.9%までになっている<sup>1)</sup>。今後、高齢化社会の進展と共に、高齢者の医療確保、特に農村部高齢者の医療確保は中国政府にとって、力を入れて解決しなければならない問題であろう。

極的に外出する方である」と答えた中国の男性が60%、女性が42.5%、日本の男性が82.5%、女性が92.5%となった。中国に比較すると、日本側が「自分から積極的に外出する方である」と答えた割合はるかに高くなった。「出来るだけ外出をする」など、社会参加に結びつくことに留意することは高齢者の健康づくりにとってとても役に立つことである<sup>4)</sup>。この調査結果から、日本の高齢者、特に日本人女性が健康づくりの面で中国側より積極性があることを読み取ることができる。(表11)

⑥子供や孫との付き合い方について

子供や孫との付き合い方を見ると(表10)、中国も日本も男女共に、5割以上の人々が「ときどき会って食事や会話をするのがよい」と考えていた。「いつも一緒に生活」を望む人は4人に1人(27.5%)であった。

これは中国で経済状況の改善と共に、今までの「子女に頼って養老する」という伝統的な考え方が段々薄くなり、養老保険に加入することによって老後の生活を送ろうと思っている高齢者が大幅に増えてくることを物語っている<sup>3)</sup>。(表10)

主な外出手段を見ると(表12)、日本では、「自動車、バイク、スクーター」と答えた男性が85%、女性が80%となり、最も高い割合を占めた。ついで、「自転車」、「おおよそ15分以上の徒歩」などの順となった。中国では、「バス、電車」と答えた男性が55%、女性が77.5%となり、最も高い割合を占めた。ついで、「家の近くの徒歩」などの順となった。この調査結果から見ると、中国の高齢者は公共交通機関を主な外出手段として利用していること

⑦日常の外出状況および主な手段

日常の外出状況を見ると(表11)、「自分から積

表11 日常の外出状況

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
自分から積極的に外出する方である	33 (82.5)	24 (60.0)	37 (92.5)	17 (42.5)
家族や他人から誘われたり、仲間がいずれ外出するほうである	4 (10.0)	8 (20.0)	9 (22.5)	15 (37.5)
家族や他人から誘われれば仕方なく外出するほうである	2 (5.0)	7 (17.5)	0 (0.0)	7 (17.5)
外出することはほとんどない	0 (0.0)	4 (10.0)	0 (0.0)	6 (15.0)

がうかがわれる。以前中国では自転車大国のイメージがとても強かったが、ここ数年、マイカーが急速に普及している。それと同時に、交通渋滞がますます深刻になっているのも現実である。公共交通機関は、大量輸送が可能であり、環境にやさしい乗り物であることから、マイカーから公共交通機関へのモーダルシフトは、地球環境への負荷の軽減、省エネルギーの促進、都市の交通渋滞の緩和、交通事故の抑制、高齢者、障害者等の移動手段の確保など、様々な社会問題を解決する上から大きな効果をもたらす。(表12)

表12 主な外出手段

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
自動車、バイク、スクーター	34 (85.0)	12 (30.0)	32 (80.0)	12 (30.0)
バス、電車	10 (25.0)	22 (55.0)	14 (35.0)	31 (77.5)
タクシーの利用	1 (2.5)	10 (25.0)	2 (5.0)	15 (37.5)
自転車	18 (45.0)	17 (42.5)	14 (35.0)	8 (20.0)
家近くの歩行	9 (22.5)	20 (50.0)	13 (32.5)	20 (50.0)
おおよそ15分以上の歩行	10 (25.0)	2 (5.0)	15 (37.5)	0 (0.0)
車椅子、電動車椅子	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.5)

#### ⑧日常生活情報源

日常生活に関する情報をどこから得ているかを見ると、「テレビ」と答えた割合が最も高く、全体の94.37%になった。また、毎日テレビを見る時間について、「2時間～3時間」と答えた割合が最も高く全体の53.75%を占めた。

日常生活に関する情報をどこから得ているかを見ると(表13)、「テレビ」と答えた中国の男性は95%、女性では90%、日本の男性では90%、女性が100%となった。ついで、「新聞」83.12%、「友人、隣人」37.5%などの順となった。これは日本も中国も高齢者が接触するメディアは依然としてテレビが圧倒的に多いことを示している。速報性、検索性の側面でテレビや新聞よりも優れているインターネットがここ数十年、急速に普及している。ところが、インターネットの時代といわれながら、高齢人口の増加と共に、質量ともにテレビに依存している高齢者が増えているのである。情報インフラとし

て生活に根付いているテレビは、長年にわたって社会変化への適応装置、再教育装置、心を癒す慰安装置、生活のペースメーカー、などなどの側面で高齢者の生活に大きく寄与してきた。おそらく今後もそうであり続けるだろう。(表13)

テレビを見る時間について、「2時間～3時間」と答えた中国の男性は65%、女性では52.5%、日本の男性では55%、女性では42.5%となり、最も高い割合を占めた。

表13 日常生活情報の情報源

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
テレビ	36 (90.0)	38 (95.0)	40 (100.0)	36 (90.0)
新聞	38 (95.0)	32 (80.0)	37 (92.5)	26 (65.0)
友人、隣人	10 (25.0)	14 (35.0)	18 (45.0)	18 (45.0)
家族	9 (22.5)	15 (37.5)	14 (35.0)	17 (42.5)
ラジオ	12 (30.0)	16 (40.0)	17 (42.5)	12 (30.0)
チラシ、折込	14 (35.0)	8 (20.0)	12 (30.0)	3 (7.5)
雑誌	6 (15.0)	6 (15.0)	11 (27.5)	4 (10.0)
インターネット、携帯電話	14 (35.0)	12 (30.0)	13 (32.5)	13 (32.5)
職場	3 (7.5)	2 (5.0)	2 (5.0)	3 (7.5)

#### ⑨高齢社会に必要な社会対策について

今後の高齢社会対策について、日本も中国も、「公的年金の充実」や「老人医療の確保」などに重点を置くべきものと考えている。

本格的な高齢社会の到来に備え、日々の暮らしに関し、政府として重点を置くべき対策を見ると(表14)、「公的年金の充実」と答えた中国の男性が57.5%、女性が67.5%、日本の男性が60%、女性が67.5%となっており、高い割合を占めている。ついで、「老人医療の確保」60%、「生涯を通じた健康づくり」57.5%などの順となっている。(表14)

中国では、高齢者保護に関する法律を制定したが、実際的な支援措置としては公園の入場料を無料にしたり、バス料金を優遇したりなどの程度である<sup>1)</sup>。ところが、日本では、国民一人一人が生涯にわたって真に幸福を享受できる高齢社会を築き上げていくために、雇用、年金、医療、福祉、教育、社会参加、

生活環境等に係る社会のシステムが高齢社会にふさわしいものとなるよう努力し続けている<sup>5)</sup>。今後高齢社会対策の面の知識や経験を日本から学ぶ必要があるように思われる。

表 14 高齢社会対策において、重点を置くべき政策

選択項目	男性 人 (%)		女性 人 (%)	
	日本	中国	日本	中国
生涯を通じた健康づくり	19 (47.5)	22 (55.0)	25 (62.5)	26 (65.0)
高齢者雇用	9 (22.5)	5 (12.5)	12 (30.0)	2 (5.0)
公的年金の充実	24 (60.0)	23 (57.5)	27 (67.5)	27 (67.5)
老人医療の確保	21 (52.5)	27 (67.5)	24 (60.0)	24 (60.0)
在宅介護充実	15 (37.5)	11 (27.5)	13 (32.5)	17 (42.5)
福祉施設の整備	9 (22.5)	22 (55.0)	15 (37.5)	19 (47.5)
寝たきりや痴呆の予防対策	11 (27.5)	7 (17.5)	15 (37.5)	15 (37.5)
社会参加活動の推進	11 (27.5)	15 (37.5)	13 (32.5)	15 (37.5)
高齢者が暮らしやすい街づくり	9 (22.5)	10 (25.0)	21 (52.5)	5 (12.5)

## V まとめ

今回の調査結果から見ると、将来の日常生活への不安に対して、中国側が「感じない」と答えた比率が日本側より高かった。不安を感じる理由を見ると、日中両国共に「自分や配偶者の健康や病気のこと」が50%以上で最も高い。したがって、両国の高齢者が日頃に特に心がけていることは「健康管理」ということである。また、健康の維持増進について、「休養や睡眠」、「規則正しい生活」、「散歩、スポーツする」、「定期的な健康診査」がとても重要だと考えていた。

普段の生活でどのようなことを楽しみにしているかを見ると、「テレビ、ラジオ」がもっとも多く、ついで、「仲間と集まったり、おしゃべりする」、「新聞、雑誌」、「旅行」などの順となっている。住宅について、日中両国の調査対象者が基本的に現在のお住まいについて満足しているが、不満な点については、中国側が「住宅が狭い」と最も多く答えたのに対し、日本側のほうが「住まいが古くなり、傷

んでいる」となっている。将来住宅のリフォームや新たな住宅取得に際し重視することについては、部屋に段差がないことである。消費全般についての満足度を見ると、日本も中国も消費全般について満足している。不満に思うものは日中両国がいずれも、「医療、医薬品」および「食料品」となっている。子供や孫との付き合い方について、中国も日本も男女共に、5割以上の人々が「ときどき会って食事や会話をするのがよい」と考えている。「いつも一緒に生活」を望む人は4人に1人。これは中国で経済状況の改善と共に、今までの「子女に頼って養老する」という伝統的な考え方が段々薄くなり、養老保険に加入することによって老後の生活を送ろうと思っている高齢者が大幅に増えてくることを物語っている。日常の外出状況を見ると、「自分から積極的に外出する」人がとても多い。主な外出手段を見ると、中国では主にバスや電車、日本では自動車である。日常生活に関する情報をどこから得ているかを見ると、「テレビ」と答えた割合が最も高く、全体の94.37%になっている。また、毎日テレビを見る時間について、「2時間～3時間」と答えた割合が最も高く全体の53.75%を占めている。今後の高齢社会対策について、日本も中国も、「公的年金の充実」や「老人医療の確保」などを重点に置くべきものと考えている。

調査結果の全体から見ると日中両国の高齢者が、住宅、消費、日常の楽しみ、生活情報源、子供や孫との付き合い方などの面でほぼ差がないことが分かった。ただし、健康づくりの面で中国人より日本人高齢者がその面の知識が豊富で、しかも積極的に行動していることがうかがえる。特に日本人女性がこの面で積極性があると考えられる。その上、日本人の女性高齢者は学習意欲が特に高いようである。そのため、積極的に外出する割合も一番高かった。高齢社会対策に対して、日中両国の回答がほぼ同じであるが、そのコメントに対する理解には差があると思われる。例えば、「介護保険」という言葉は大部分の中国人高齢者にとって馴染みのないものである。

高齢社会を迎えるのは日本や中国だけではなく、今後多くの国々が直面するようになる大きな社会課題である。高齢者が安心して暮らすことのできる社会を築き上げていくことが求められる。これを実現するために、それぞれの国、地方政府、企業、地域社会、家庭及び個人が相互に協力しながら各自の役割を積極的に果たしていくことが必要であると同時に、国際間の連携や交流も欠かせないものであろう。

**参考文献：**

- 1、張愷悌・郭平：『中国人口老齡化与老年人状况藍皮書』、中国社会出版社、2009年9月。
- 2、柴彦威：『中国城市老年人的活動空間』、科学出版社、

2009年夏。

- 3、陳功：『社会変遷中的養老和孝觀念研究』、中国社会出版社、2009年6月。
- 4、内閣府：『高齡社会白書 平成22年版』、2010年5月。
- 5、内閣府：『高齡社会对策基本法』（平成七年十一月十五日法律第二百二十九号）、1995年11月。